

Q 学校経営で大事にしてきたことは何ですか。

A 私は、学校において何よりも大事にするべきことは、「授業の充実」であると思います。授業が充実すれば、自ずと他の諸問題も解決できると考えているからです。

ある学校の先生に、「授業の充実こそが教師の使命であり、よい授業をするための教材研究は教師の責務である。」と話す、「今の学校の現実、そんなものではない。明日の授業よりも、今、起きている子どもたちの問題行動の解決が先決なのです。」と言うのです。そうでしょうか。私は、生徒指導上の課題の多くは、子どもたちの学校生活への不満にあり、学校生活が楽しく充実したものになると生徒指導上の問題は自然に解決するものと考えています。そのためにも、何を置いても学校生活の大部分を占めている授業の充実こそが大切だと思うのです。

言うまでもなく「良い授業」は、「楽しい授業」であり「分かる喜びに満ちた授業」です。このような授業をつくるには、教師一人一人の指導力を高めることこそが大切です。授業の主人公は言うまでもなく児童生徒ですが、授業づくりの主人公は教師だからです。教師の指導力の向上には、一にも二にも研修が大切です。教師個々が自覚し、進んだ実践や優れた研究に学ぶ個人研修も大切ですが、それ以上に効果的なのは、学校全体で取り組む校内研修です。校内研修は、対象である児童生徒の生の姿を通しての研究ができるだけに、研究内容がより具体化し、明日からの実践に即座に役立つ効果が期待できますし、参画する者が同僚であるだけに、遠慮のない本物の研究が出来るというメリットもあります。

年間計画に位置づけられた研修会と同時に、日々の授業の観察が大切です。授業観察を日々行うことで、教師の授業方法や授業形態が分かります。また、教室環境や学級経営も見えてきます。校長は、日々の授業観察を通して、適宜指導助言しながら、授業改善と教員の育成を図ることが必要です。

校種

小学校・中学校